（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人　自立共生会		
事業所名	社会福祉法人自立共生会　ひかりの里1階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町提出日	平成27年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470100658-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成　26　年　11　月　25　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「年寄りの底力を活かす」を実践するため昔取った杵柄（竈でのご飯炊き、門松・しめ縄作り、料理・おやつ作り、布巾・雑巾作り、ボタン付け、畑の野菜作りのコツ等）を併設の放課後児童健全育成事業の児童クラブの子ども達や職員に教えていただいている。又事業所内保育の幼児や共用型DSの中で受け入れている日中一時支援のしょうがい児との交流の中で、日々の生活の中で役割を持ち感謝される存在になっていただけるよう支援している。自治会活動や地域の小学校行事にもできるだけ参加し一地域住民として役割を持つと共にその人らしい生活を送っていただけるよう努めている。また外出、買い物、散歩を兼ねた防犯パトロールを実施し日常的に戸外へ出て頂けるよう支援している。家族との時間も大切にしており、年2回ホテル等で家族会合同の会食会を催している。ご家族との外出支援またご家族と連携し希望があれば電話でいつでも家族と連絡ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

団地の真中にある事業所は、立ち上げの際には地元住民の反対運動もあったという。しかし、今では自治会活動に積極的に参加し、なかでも散歩を兼ねて児童と一緒に回る防犯パトロールは、昼間留守がちの団地の見張り役となり喜ばれている。また、避難訓練の際のかまどでの炊きだし、年末の餅つき、小学校でのふじっこ祭りに手作りのわらび餅づくりをするなど、日常的に利用者が底力を発揮できるように職員が一丸となって後押しをしている。利用者は、それぞれの役割を受け持つことで自信を持ち、学童保育の児童の見守りも心の栄養になり笑顔の絶えない事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念“お年寄りの底力を生かす”を職員一同で理解・共有し、利用者の自信回復や、生きがいづくりに取り組んでいる。	開設当初より変わらぬ理念は職員にしっかり浸透し、利用者のやる気を起こさせるために職員間で絶えず話し合い、創意工夫をして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域清掃や青少年育成地区会議、地域防災訓練等に積極的に参加している。防犯パトロールの腕章をつけて散歩や近所の公園に出かけ、ご近所の方たちと交流をはかっている。児童クラブの子ども達とその親とも日常的に交流している。	積極的な自治会活動参加により、地元住民の信頼を得ている。児童クラブの子供たちを迎えがてらに公園まで散歩し、子供たちと共に団地の防犯パトロールをするなど地域の住民との交流が日常的に出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・傾聴ボランティアの受け入れをしており、それを通して認知症の理解や支援の方法を広げている。また、行事などを開催する際、地域の方々にも参加して頂けるよう工夫し、認知症についての理解など地域に広がるよう取組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、桑名市介護高齢福祉、北部地域包括支援センター、第三者委員、自治会長、利用者、ご家族にも参加して頂き、取り組みを報告している。また、防災訓練等に参加していただき、意見や提案を頂き、安全対策やサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、年間を通して定期的に開催してホームの取り組みを報告している。防災訓練では自治会からの参加もあり、意見や提案をしてもらい次の訓練に役立てている。	運営推進会議は、短時間に報告のみに終わっているような感がある。今後はいろいろな分野の参加者と共に地域の問題など身近な話題がどんどん出てくような打ち解けた場になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	桑名市介護支援ボランティアの受け入れをしている。また、学生ボランティアや三重県社協のインターンシップの受け入れをいている。徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関となっている。	桑名市や包括、社協から依頼を受け実習生の受け入れや研修会での講師等を引き受けている。また、施設長が県の協議会理事になり、鳥羽市、名古屋市での認知症フォーラムに利用者と共に参加するなど、幅広い活動により連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修会を実施し職員全員が身体拘束をしないケアを実践しており、万が一そのようなケアが必要な場合は、ご家族にその旨を伝え、承諾を得て、記録に残すことになっている。身体拘束ゼロへの取り組みをしている。	決して身体拘束をしないことが、法人の理念にもなっているので、毎年職員研修で取り上げている。車の多い地域性と3階建ての建物の構造による危険回避のために玄関にセンサーチャイムを設置している。利用者の状況によって施錠せざるを得ない状況のときには、家族に説明し、一時的に施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内の研修で、虐待防止の職員の意識を高め、ケアの話し合いの場を持ち、利用者の状態の把握に努め、虐待が見過ごされることないように注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について研修会・勉強会を開き、参加出来なかった職員には関係資料を配布し、活用できるよう努めている。中央包括、地域包括と連携をとり成年後見制度を利用されている利用者もおり後見人との連携を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、事前に日時決めて、必要書類を前もって準備し内容・運営方針・権利・義務などが十分に説明ができるように努めている。利用者、ご家族が不安や疑問点を聞きやすいように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に「御意見箱」を設置している。ご家族が面会に来られた際に職員は日常生活の様子を報告し、ご家族にケアプラン更新時のカンファレンスの際に意見・要望を聞くようにし、運営に反映させている。	何かあれば「要望受付表」に書いてもらい記録を残し、事業所の課題ととらえ職員全員で話し合い改善に取り組んでいる。家族会の会費を年2回ホテルでの食事会に当てて、利用者・家族の楽しみとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスにて意見・提案をきき、運営に反映している。また毎月職員は「月間報告書」に業務改善案等を書いて提出し、代表者が読み反映させている。	利用者が生き生きと笑顔を絶やさない生活が送れるよう、職員は絶えずアイディアを出して創意工夫をしている。「月間報告書」の提案事項の欄に意見を書き込み、主任ミーティングで取り上げて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「月間報告書」に各職員が時間外に行った仕事を記入して、運営者に提出してもらっている。また研修会・勉強会のレポートを提出してもらい努力手当や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアや能力に応じて、グループ内外の研修や外部の講師を招いての勉強会の参加を促している。また、研修報告書やDVDを回覧し、参加できなかった職員にも情報が得られるようにしている。DCMを外部上級マッパーに依頼し職員と共にマッピングを行いケアに活かせるようフィードバックしてしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	責任者は三重県地域密着型サービス協議会で理事をしており、他の施設との情報交換やネットワーク作り他、職員の研修会・勉強会・全国大会への参加や事業所見学・実習生の受け入れ、見学に行くなどを積極的に行っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、求めていることなど、本人の思いをゆっくり聞く機会を持ち、職員全員で情報を共有し安心できる環境や人間関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を聞き、困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し一緒に考え、ご家族をサポートしていく関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや、医師・入居前のサービス事業者・家族との連携をを行い、求められることを支援できるかどうかミーティングで話し合い、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人やご家族からの情報をもとに個々の利用者の状態に合わせ、役割を持って頂き、昔取った杵柄を生かし、かまどでのご飯炊き、おやつ作り、畑仕事などをして頂き、人生の先輩として、様々な事を教わりながら取組み、共に支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアカンファレンスにご家族にも参加して頂き、共に本人のケアを考えている。食事会や大掃除、餅つき、夏祭りなどの行事にも参加して頂いている。本人の様子を面会時や定期的に伝えたり、本人・ご家族の思いを傾聴し、共に支えていく様働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーや神社など、馴染みの場所への外出機会を作り、馴染みの人との交流のきっかけ作りをしている。また、馴染みの人との交流や馴染みの場所へ行くことが出来る様ご家族にも働きかけている。友人・ご近所の方の面会時親しくお話しができるよう支援している。	近所の顔見知りの住民が時々ホームを訪ねてくれたり、夏祭りや餅つきにも参加してもらっている。また、児童クラブの子供たちの遊びを見守り成長を楽しんでいる。子供たちも利用者に褒められ生き生きといい笑顔を見せ相乗効果が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が良い関係を保てるよう席の配置や環境作りを行っている。それぞれが役割を持ち、互いに助け合い感謝される存在になって頂けるよう関係作りに努めている。日中一時支援やデイサービス利用者との関わりも積極的に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより、退居された後も必要に応じて、本人・ご家族の不安や要望等を傾聴し今後のサービス利用における相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートやお年寄りの底力を生かす取り組み表を活用して、本人の思い、希望、意向などを本人との対話やご家族からの情報などから、把握するよう努めている。	毎年センター方式で利用者から聞き取った思いや意向を分析し、職員が描いた利用者像に書き込んで職員間で共有している。家族会の時に話が盛り上がりそこで出た利用者の情報なども参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、生活の様子を本人、ご家族、担当ケアマネージャーから聞き、センター方式を活用し、生活歴、環境、嗜好、特技、馴染みの物、昔の出来事など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、、一日の動きや心身状態・思いなどを、職員全員が把握できるようにしている。個別記録にご本人の言葉を記録し、心身状況の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月１回のカンファレンスに希望時ご家族にも参加して頂き、本人の要望も加え、本人主体の課題やケアの在り方を話し合っている。医師・歯科医師・薬剤師・言語聴覚士からの助言を活かした介護計画を作成している。ご家族にサービス評価や要望を頂いている。	月１回のカンファレンスでは、利用者・家族の要望を重視し、医師など専門家の助言をもとに今後の方針を話し合っている。ケアプランの作成は、６か月に期間が広がったが、状態に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録・療養シートに日々の様子や気付きなどを記入し、情報を共有している。家族や協力期間の医師・薬剤師などと連携し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内保育、学童保育、デイケアなどグループ全体の行事へ参加し、交流を図ったり、幼児との防犯パトロール・日中一時支援のしょうがい児との交流も行っている。本人の要望に応じた外出・外食や買い物など支援に取組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会応援、小学校の祭に出店、傾聴ボランティア、学生ボランティア、桑名市ボランティアセンターなど交流を行っている。自治会広報の配布や回覧板、自治会の祭参加、資源ごみ回収、公園の草取り、散歩を兼ねたパトロールなど、地域の中で力を発揮し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、内科、神経内科、循環器、脳外科医の訪問診療を実施している。歯科、眼科については、必要に応じて、個々のかかりつけ医へ受診及び往診をしている。その他の初診に関しては、主治医からの紹介状を持参している。	入居の時点で全員かかりつけ医は事業母体の院長としていて、定期的に往診を受けている。毎朝職員がバイタルを測り、毎週訪れる訪問看護師から助言をもらい健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携しているウエルネス医療クリニックの看護師に週に一度健康管理をして頂き、日常的に健康状態の変化などを相談し、個々に合わせた受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を医療機関に伝え、連携している。また、本人、ご家族の希望を聞き、医療機関との情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を想定し、ご家族にアンケートを実施している。ご本人にも医師・職員・管理者からご希望を聞くように努めている。利用者の状態変化に応じ再度、本人・ご家族と医師と連絡相談しながら、支援を行っている。	入居時と重度化した際などに何度も家族の意見を聞くアンケートをとっている。そして、看取りが必要になった際には院長・看護師・職員が立ち会い、家族に説明し、家族の意向に応じている。職員も研修を受け、十分な意識を持って取り組んでいる。今年度3人の利用者の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用法、心肺蘇生、緊急対応の研修を行っている。事故やヒヤリハットの個別マップを作り、情報を職員が共有し、事故発生を未然に防ぐ対策を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員に来て頂き、利用者と共に年に6回を目標に避難訓練を行っている。また消火器使用訓練を行っている。自治会、運営推進会議参加者、クリニックの男子寮への協力依頼をしている。緊急時の一斉メール、緊急連絡網体制を整えている。	自治会の自主防災訓練に参加し、今年度6回の避難訓練を実施した。緊急時連絡体制マニュアルに基づき職員の役割分担もしっかりとした取り決めがある。備蓄も絶えず在庫をチェックして、いざという時に備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会、研修会を通して、利用者の誇りやプライバシー保護への意識向上を図っている。	職員は毎年研修会に参加し、経験の浅い若い職員にはカンファレンスでアドバイスをしている。また、家族から若い時代の写真を提供してもらい、職員が利用者一人ひとりの自分史を作成し、本人・家族から喜ばれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表現しやすいように傾聴し、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話を持ち、一人ひとりどのように過ごされたいか聞くようにし、意思決定の尊重に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、本人と着たい服を選ぶようにしている。2カ月に1回散髪ボランティアに来て頂いている。外出の際、希望される方には薄化粧を楽しんでいただいている。夏祭りやひな祭りに希望があれば着物を着て楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事や誕生日等にふさわしいメニューを取り入れたり、嗜好調査を行い利用者が調理で活躍できる献立、食事が楽しみになる献立を栄養士が作成している。利用者と一緒に準備、味付け、食事、片付けなども行っている。	自家菜園で採れた新鮮な野菜を使い、職員と利用者が一緒に下ごしらえ、調理、食事、片付けをしている。誕生日には本人の希望を聞き、メニューを変更している。また、回転寿司など利用者の行きたい場所に出掛けることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し、個々に合った栄養補給、好みの飲み物を工夫し、水分補給が出来るように支援している。食事の形態、提供のタイミングを工夫し完食していただけるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下体操を行っている。また毎食後、個々に応じた声かけをしたり舌苔に注意し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわかる様張り紙をしている。個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促し、リハビリパンツ、パッドの使用を減らし、目標として布パンツで過ごせるように努めている。	トイレ誘導は声に出さず、有無を問うカードをみせて確認している。リハビリパンツ、パットの使用を減らす取り組みの結果、半数以上が布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。食物繊維の多い食材を取り入れた献立を栄養士が作成している。水分を摂って頂けるよう好みの飲み物を把握・提供したり、米に寒天をまぜて炊飯している。掃除・体操・散歩などで体を動かすなどで、自然排便が出来るよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、個々の希望に合わせて入浴して頂けるように支援している。また、残存機能を活かしていただける様時間をゆったりとっている。入浴を個別対応できる機会ととらえ、楽しい会話を交えながら楽しく入浴できるように努めている。	個浴の他、機械浴槽を導入し、状態が悪くなっても浴槽に浸かれるよう設備している。入浴嫌いな利用者にはお気に入りの歌を流すなど、誘導方法を工夫して気持よく入浴をしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣、状況に応じて、光・音・室温を整え、安心して眠れるよう支援している。定期的に寝具を干し、カバー・シーツの洗濯をし衛生管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師の指示のもと、服薬支援を行っている。薬の副作用、用法用量の理解に努め、利用者の状態や変化など、主治医・薬剤師に報告し、確認に努めている。服薬方法についても相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力を活かした役割を持って頂いている。定期的に食材の買い物に職員と一緒に行って頂いている。児童クラブの児童と夏祭りやクリスマス会など、季節の行事を楽しんで頂いている。他ユニットと合同でひな祭り会やお茶会で和服を着て楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回覧板まわし、郵便物届け、他ユニットへのおすそ分け、畑仕事等戸外へ出かけられるよう支援している。個々の希望に応じて、買い物、季節の花見、地域の夏祭り参加など、外出を支援している。ご家族に本人の希望をお伝えし、協力をお願いしている。ご本人の希望により選挙の投票に行けるよう支援している。	ホームのベランダで日光浴をしたり、畑仕事の得意な利用者は菜園に出るのが楽しみである。学童の子供たちのお迎えに近くの公園までの散歩、食材の買い出しに同行、地域の行事には積極的に参加している。家族の協力も得て可能な限り外出の希望を叶えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者には、お金の管理をご自分でして頂いており、自己管理が難しい方にはおこづかいをこちらで預かり、要望に沿って買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と連携し、携帯電話にていつでも家族と連絡が出来るように支援している。郵便局へ行く機会も作り、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の花があれば活け、なじみの音楽を聴いて居心地良く過ごせるよう工夫している。共同空間でのテレビの音量や室温、光等には気をつけて設定しており、希望時は、その都度、安心して頂けるよう対応している。	3階建ての建物のどの階からも家庭菜園が見え、作物の成長が手に取るようにわかる。日当たりがよいリビングは明るく、利用者の椅子は様々な形のものを使い区別できるようにしている。皆で歌を歌うために歌詞のファイルを用意し支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、籐椅子、中庭・玄関先にはベンチとゆったり過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使いなれた家具や日用品を持参して頂き、居心地良く、安心できるよう工夫している。	ほとんどの利用者は、居間兼食堂で一日を過ごしているので居室は寝るだけの場所になっているが、それぞれの居室は家から使いなれた家具を持ち込み居心地のいい空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	児童との交流が日常的に行えるよう児童クラブが併設されており、お互い常に行き来がある。中庭に畑がもうけられている。畑や果樹から自主的に野菜や果物を収穫できる。個々の能力を活かし、役割を持って安全で自立した生活が出来るようにしている。		